

目的 毛製品の家庭洗濯取あつかい方法の適否判断の手がかりとして 空げき構造と風あい変化を検討した。

方法 起毛あみ地（ニットフラノ）の洗濯機洗い、手洗いおよび柔軟仕上げ試布を試料とした。

(1)空げき構造：n-dodecane ほかを用い、平衡吸液法と遠心脱液法を組みあわせて1380 μ 以下の空げき量／半径分布を、臨界圧法により最大貫通空げき径を調べた。

(2)風あい判定：判定者10名による官能検査を行った。

結果 (1)洗濯機洗い試布は原布に比べ空げき半径1000 μ 近傍の空げき量増加を認めたが、手洗い（中性洗剤）試布ではこの径域の空げき量変化が少ない。

(2)洗濯機洗い（弱アルカリ性洗剤）試布は柔軟仕上げにより1000 μ 付近の空げき量増分を減少させたが、洗濯機洗い（水）試布では同じ効果は認められない。

(3)原布の小径域（5 μ ）の空げき量ピークは、洗濯機洗い試布では10 μ 付近に移行した。手洗い試布では同ように10 μ 域に移行するが、そのピーク空げき量は減少し、空げきが10~1 μ の径域に分散する。

(4)風あい判定では、「なめらかさ（触感）」において空げき構造と対応する差異を見出した。